

つながり

tsunagari

37

2024.6
Summer

特集

穂波地区へ移転して10年

大崎市民病院の「いままで」と「これから」



発声訓練を行う言語聴覚士

地域の医療機関のご紹介

当院は、皆さんにとって身近な医療機関と役割分担を図り、地域全体で切れ目のない医療を提供することを目指しています。こちらでは、当院の登録医療機関(かかりつけ医)をご紹介します。

仙台リハビリテーション病院

〒981-3341
宮城県富谷市成田1-3-1
TEL 022-351-8118
<http://www.sendai-reha.or.jp>



WEBサイトはこちら



渡邊院長

地域の皆さんへ

当院は平成20年に開院した宮城県で初めてのリハビリテーション専門病院です。リハビリ専門医4人、脳外科専門医1人の計5人の医師と理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などリハビリスタッフ82人により、県内各地の病院から紹介された脳卒中や脊髄損傷、大腿骨頭部骨折の手術後などの患者さんに対し入院および外来でリハビリ訓練を行っています。

入院リハビリは週末や祝日も平日と同様に行い早期の機能回復や社会復帰を目指しています。また介護保険による訪問リハビリや通所リハビリも行い、地域の介護事業所との緊密な連携にも努めております。

みんなのパタ崎さん

patasakisan

今回はカテーテル手術を見学したパタ~~！
カテーテル手術とは、血管に細い管を通して狭くなっている部分を拡張する手術のことパタ。放射線機器で血管を写して、どこが狭くなっているかを確認しながら手術をするパタ！
3月に放射線機器が新しくなったことで、患者さんの被ばく量を50%以上低減できたパタ！さらに、キレイな3D画像の撮影ができるようになったことで、より安全に手術を行うことができたり、手術時間が短くなったり、嬉しいことがいっぱいパタ！

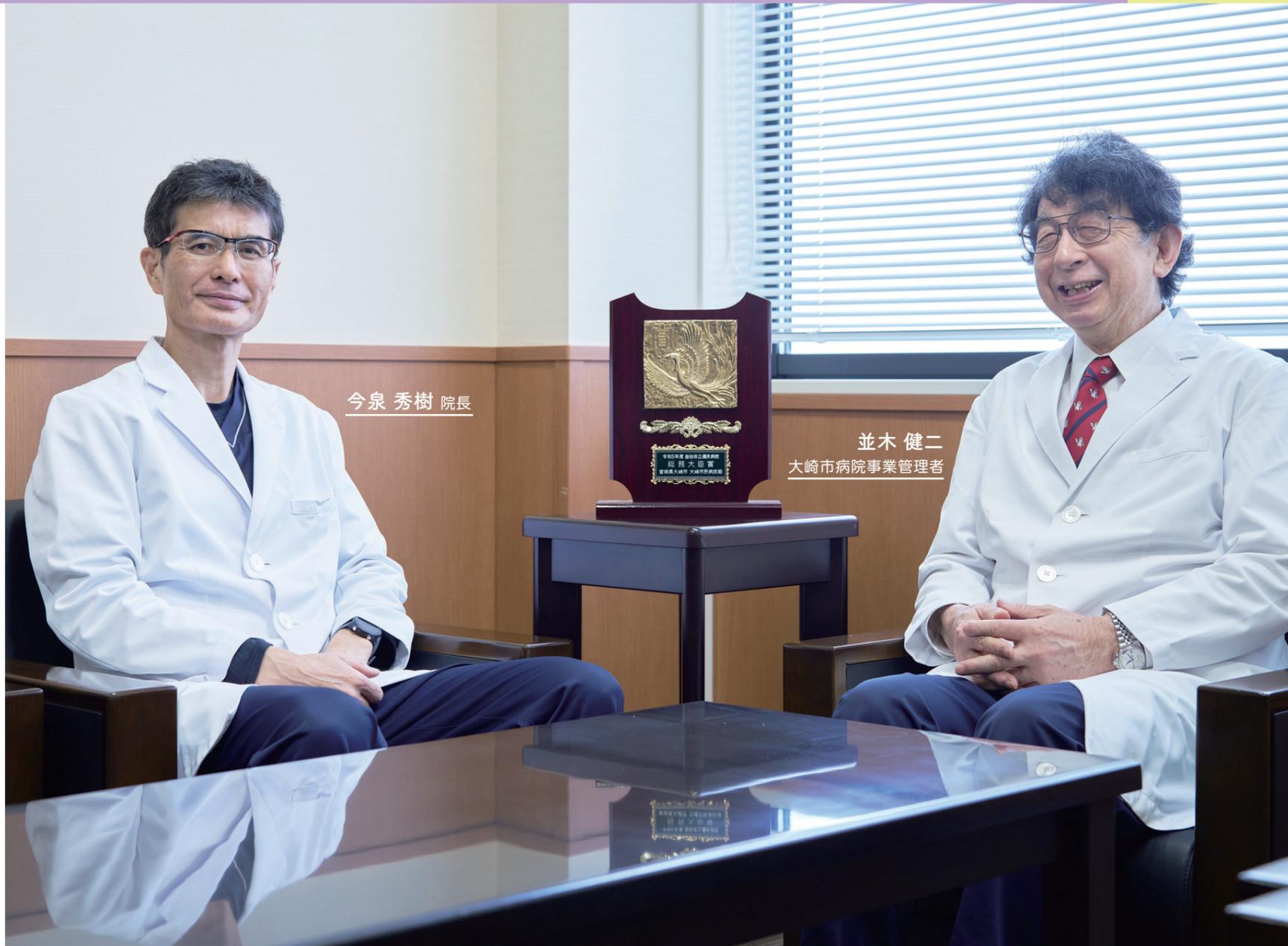
#大崎市民病院 #カテーテル手術 #放射線



穂波地区へ移転して10年

大崎市民病院の「いまままで」と「これから」

令和6年6月、大崎市民病院の本院は、皆さんに支えられながら穂波地区に移転して10年を迎えました。今回は特別企画として、大崎市民病院事業管理者で前院長の並木健二先生と現院長の今泉秀樹先生のお二人に、大崎市民病院の「いまままで」と「これから」についてお話を伺います。



今泉 秀樹 院長

並木 健二
大崎市民病院事業管理者

—昭和13年に大崎久美愛病院が発足し、昭和32年に古川市立病院に改称。昭和46年には総合病院に承認されました。並木先生が大崎市民病院に着任されたのは？

並木：昭和62年に、当時の古川市立病院に着任しました。当初は1年間の勤務と言われていたんですが、もう勤続37年になりますね。その頃、宮城県北の基幹病院としては、当院と公立築館病院（現・栗原中央病院）、公立佐沼病院（現・登米市民病院）があり、3病院とも200〜300床で同じくらいの規模でした。

今泉：医師はどれくらいですか？

並木：20人くらいですね。外科も私を含めて4人でしたが、手術症例数はかなり増え、東北では岩手県立中央病院について2番目くらいの実績だったと記憶しています。救急についても、古川方式といって、古川市医師会を中心に地域の病院や診療所と連携して、輪番制を組むなど救急医療体制を工夫しました。

今泉：その頑張りのおかげで平成6年に東北初の救急医療センター（現・救命救急センター）が開設できたんですね。

並木：それまでは人口100万人に対して1施設の設定が国の基準でしたが、それでは不十分だということで30万人に1施設、救命救急センターをつくるという国の方針が出ました。救急センターができたことによって、麻酔科や脳外科、ICU（集中治療室）もでき、人材も集まったので、他病院から患者さんを紹介していたことも増えましたね。

—古川、大崎エリアだけでなく、県北全体の流れが変わったということですね。

並木：そうですね。今の二次医療圏ぐらいまではカバーできるようになりました。

今泉：平成20年にはDPC対象病院*1にも認定されていますね。

並木：準備に2年ぐらいかかったかな。それが後のDPC II群病院*2の認定につながっていきます。

開院～移転まで

- 昭和13年 {1938} 大崎久美愛病院発足

- 昭和32年 {1957} 古川市立病院に改称
病床数218床
- 昭和45年 {1970} 救急告示病院の指定
- 昭和46年 {1971} 総合病院承認
- 昭和62年 {1987} 並木医師
外科副院長着任
- 平成6年 {1994} 救急医療センター
（現・救命救急センター）
運用開始
- 平成9年 {1997} 災害拠点病院に指定
- 平成10年 {1998} 今泉医師
整形外科科長着任
- 平成15年 {2003} 地域がん診療連携
拠点病院に指定
- 平成16年 {2004} 地域周産期
母子医療センターに指定
- 平成18年 {2006} 「大崎市」誕生
大崎市民病院に改称
登録医制度開始
- 平成20年 {2008} DPC対象病院となる
- 平成23年 {2011} 電子カルテシステム導入
- 平成24年 {2012} 入退院センター設置
- 平成26年 {2014} 大崎市古川穂波地区へ移転



*1：DPC対象病院は、厚生労働省が急性期の病院として必要な条件を満たす信頼性の高いと認めた病院。
*2：一定以上の医師研修の実施や、診療密度等の要件を満たす医療機関が認められる。現在はDPC特定病院群という。

移転後

- 平成27年{2015} ○ 許可病床数を500床へ増加
- 平成28年{2016} ○ DPC II 群病院へ昇格
- 平成29年{2017} ○ 病院機能評価 (3rdGバージョン1.1) 認定
- 平成30年{2018} ○ DPC 特定病院群へき地医療拠点病院に指定小児科連携医 (こどもサポート医) 制度を開始
- 平成31年{2019} ○ ISO15189 (臨床検査部門) の認定
- 令和元年{2019} ○ 指定障害福祉サービス事業 (短期入所) の指定
- 令和2年{2020} ○ アカデミックセンター設置
- 令和4年{2022} ○ 地域がん診療拠点病院 (高度型) に指定経カテーテル大動脈瘤弁留置術 (TAVI) の導入
- 令和5年{2023} ○ 手術支援ロボットにて、消化器内科、泌尿器科、呼吸器外科の初症例を実施
ISO15189 (臨床検査部門) 認定更新
TQMセンター設置
病院機能評価 (3rdGバージョン2.0) 認定



自治体立優良病院
総務大臣表彰を受賞



大崎地域1市4町で
「大崎地域の医療提供体制の確保に係る連携協約」を締結



なみき けんじ
並木 健二
大崎市病院事業
管理者

昭和53年東北大学医学部卒業。公立気仙沼総合病院、東北大学医学部附属病院第2外科、花巻総合病院、福島市大原総合病院など数多くの病院勤務を経て、昭和62年古川市立病院外科副院長に就任。平成20年より病院建設整備局長兼副院長として、大崎市民病院の移転に携わる。平成29年より大崎市民病院事業管理者兼院長に就任。令和4年から現職。

—現在の穂波地区への移転でもっとも重要視されたことは？

並木：仙台や他の都市と変わらない医療をき準備もかなり大変では？

並木：そうですね、診療や手術の質、人員の配置、患者さんの在院日数の管理などすべてにおいてグレードアップしていかないといいけません。重要だったのは地域全体で診療をいかにコントロールできるかでしたね。

今泉：そのために他の病院と機能分化を進めました。今ではどこでも地域完結型が採用されていますが、先取りして運用できました。もともと大崎地区は地域との円滑な協力体制があったことも大きいですね。

—大崎市民病院は災害拠点病院でもあります。

並木：平成9年に災害拠点病院に指定されましたが、平成15年に宮城県北部地震が起きました。鹿島台町国保病院(現・大崎市民病院鹿島台分院)の被害が大きく、入院患者の避難が急務でした。そこで古川市内の各病院に連絡して移送の段取りを担いました。

今泉：その対応は日本で最初の病院避難として災害におけるモデルになりました。今では病院避難はDMAT^{*3}の大事なミッションで、訓練や研修で必ず取り上げられます。

—新型コロナウイルス感染症の拡大もありました。それについてはいかがですか？

並木：平成14年、中国でSARSが確認された頃から、さまざまな感染症対策は講じてきました。基幹病院として大事なことは感染症へ

*3:災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チームのこと。



いまいずみ ひでき
今泉 秀樹
大崎市民病院
院長

昭和62年東北大学医学部卒業。秋田県厚生連仙北組合総合病院、福島労災病院、東北大学医学部附属病院整形外科、宮城県拓杏園など数多くの病院勤務を経て、平成10年古川市立病院整形外科科長に就任。第一整形外科科長、リハビリテーション科科長、医療安全管理者などをを経て、令和4年から現職。

ちつと大崎のみなさんに届けたいというその思いは強かったですね。

—以前はJR古川駅や市役所のお近くですね。

並木：当初は現地での建て替えの案もありましたが、周囲には民家も多く、本院・南病棟救命救急センターの3つの建物をひとつにするのが難しかったため、非常に使いづらいものになってしまつ可能性がありました。

今泉：街の中心部でしたからね。

並木：何度も検討した結果、穂波地区の方が使い勝手のいい建物にできるし、費用も工期も抑えられるとなつて、移転という結論になりました。

今泉：こちらの方が国道4号線に面しているし、東北自動車道から専用のゲートで救急車が直接降りられるようになったので、県北全体の救急の受け入れがスムーズになりました。

の対応も重要ですが、他の一般医療も滞りなく行うことです。だから移転する時には感染症が発生してもしっかりと隔離できるように配慮しました。

今泉：病床連携、病院連携はしっかりとできていましたね。

—教育の分野についてもお話しただけですか？

今泉：当院では東北大学と連携した大学院があります。宮城県北先制医療学講座です。令和2年にはアカデミックセンターも設置しました。コロナ禍で活動が制限されていましたが、今後はさまざまな活動が展開できると思います。

並木：宮城県北先制医療学講座の話題が出ま

—建設にあたって最も工夫されたところは？

並木：動線ですね。たくさん病院を視察に行つて気づいたのは、セクションだけの配置ではなく、病院全体の配置の重要性でした。病院によっては救命救急センターとCTや手術室の距離がかなり遠かったり、一般の患者さんがいる場所を通らざるを得ない位置にあるところもありました。その教訓を活かして、救命救急センター、放射線、手術室、ICUの配置にはこだわりました。CTなどは撮影室を真ん中に置いて、救命救急センター側からも、一般診療側からもアプローチできるように工夫しました。

—移転の2年後にはDPC II 群病院に認定されました。

並木：移転するにあたって「日本一の病院を目指す」という目標がありましたからね、やはり大崎病院と同等のII群を取得する必要がありました。

した。教育活動にもつながるひとつのアイデアとして中核病院を中心とした医療モールの構想を考えています。それは、病気になる前、未病の時にかかる健診センター機能も設置し、早期に見つけて早期に治療する。進出した場合でも高度医療できちんと治し、よくなつたらお家に帰つて、またかかりつけのお医者さんに通つていただく。地域のみなさんが病気が医療で困つたことがあつても、ここに来ればあらゆる分野の医療相談ができるし、治療もできる。専門家の指導を受けながらトレーニングできる施設などを併設しても良いでしょう。そんな広義の医療モールをこの地域で実現できたらなど考えています。

今泉：県北のみなさんが未病の段階からここに集まってくる。病気によってあちこち行かなくても、困つたらここに来ればいいという安心感が生まれると思います。

—最後に、ひと言ずつお願いします。

今泉：当院の理念は「市民が安心できる医療の提供」です。そのためにさまざまな対策や取り組みを進めています。これからも理念を忘れずに頑張つていきます。

並木：これまで積み重ねてきたことをうまく活かしながら、最良の医療を届けていく、患者さんに喜んでいただけるものを届けていきたいですね。

—ありがとうございました。

がん相談 Q&A

がん相談支援センターでは、患者さんやご家族から、さまざまな相談が寄せられます。ここでは、よくある相談の一部を紹介します。



Q 医療費が高い。なんとかならないのかな？

A ひと月に医療機関や薬局の窓口で支払った額が一定の金額を超えた場合に、その超えた金額が支給される**高額療養費制度**があります。また、あらかじめ保険者へ「**限度額適用認定証**」を申請しておくか、もしくは健康保険証とマイナンバーカードを紐付けすることで、マイナンバーカードの利用できる医療機関であれば、窓口での支払額そのものを初めから自己負担の上限額までとすることができます。自己負担の上限額は年齢や所得に応じて定められています。

がんの治療には、検査費や入院費など、さまざまな費用が必要になります。治療が始まる前に、通院や治療、治療後の療養について必要なお金や利用できる経済的支援制度などについて調べておくことで、お金に関する心配を軽減することができます。「医療費が払えるか心配」「自分に当てはまる制度がどれかわからない」「どこに相談したらいいかわからない」というときには、まずは「がん相談支援センター」にご相談下さい。



TEL 0229-23-3311 (代表)

大崎市民病院の先生をリレー形式でご紹介します！

Team "tsunagari" チーム つながり

Vol. 04

本院は43の診療科があり、現在常勤医師は153人所属しています。第4回は、4月1日付で副院長に就任した境吉孝先生をご紹介します。普段は、皆さんの健康を守るために尽力している先生たちですが、実は意外な一面も…？

大好きなワインたち

さかい よしたか
境 吉孝 副院長

- 診療科 消化器内科、胆膵内科
- 主な資格・認定 消化器内視鏡学会指導医、消化器病学会専門医など
- 趣味 ワイン、グルメ探索など

4月1日付けで副院長を拝命いたしました。働き方改革を含めて病院運営の難しい時代ですが、全病院職員が働きやすい病院(それがひいては患者さんにも優しい病院につながると思います)を目指して努力していく所存です。自分はおいしいワインやレストラン探しが趣味です。皆さんと情報を共有できればうれしいので、気軽に話しかけてください。

次回は、循環器内科の岩淵 薫先生です。



おおさき メディカルスポット Vol.5 リハビリテーション部

当院は、医師以外の職種のスタッフも、皆さんの健康のために昼夜を問わず医療を提供しています。今回はリハビリテーション部から、社会復帰に向けて生活に必要な訓練や指導を行う業務についてお話しいただきました。

3つの専門分野で 身体の機能改善に努める

病気の発症や外傷、手術に伴う身体機能や日常生活動作能力の低下、コミュニケーション能力の低下等が生じた方に対し、リハビリテーションを提供しています。

リハビリテーションには理学療法、作業療法、言語聴覚療法の3つの専門分野があります。「理学療法」は、主に起きる・座る・立つ・歩くなどの基本動作能力の改善を目標に行っており、「作業療法」は、食事や着替え、排泄など日常生活動作の練習を中心に、家事や仕事、趣味活動などその方にとって大切な活動に取り組みんでいます。また「言語聴覚療法」は、話す・聞くなどのコミュニケーション能力や、食べる・飲み込む機能のほか、記憶力や判断力、集中力などの改善を目標に行っています。

嚴重なリスク管理の下で より早い社会復帰へ

本院は急性期リハビリテーションを担っており、病気の発症や手術後の不安定な時期から嚴重なリスク管理の下、身体を起こす練習やむせこみなく安全に食べるための準備を進めています。総勢37人の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が配置されており、患者さんの個々の状態にあわせて適切なリハビリテーションを行っています。

特に急性心筋梗塞、心不全、心臓手術などを対象とした心臓リハビリテーションにも力をいれています。また近年では、栄養サポートチーム(NST)、認知症ラウンド、骨粗しょう症ラウンドなど多職種が連携し、患者さんが安心して治療を受けられるような活動にも参加しています。



階段昇降訓練を行う理学療法士



家事動作訓練を行う作業療法士

紹介動画もぜひご覧ください

